エジプトで行われる日本の特活

西大和学園カリフォルニア校

平日校校長小倉佳恵

「エジプト・日本教育パートナーシップ」（EJEP）という国家間プロジェクトをお聞きになったことがあるでしょうか。エジプトの公教育に日本式の教育を導入して、道徳心や規律、協調性を学ぶことで、テロリズムとの闘い、平和や安定の促進に役立てたいと、2016年春に生まれた試みのようです。日本の指導要領をもとに授業を計画している私たち教師は、学級活動や特別活動（特活）を通して、子どもたちが相互に話し合って物事を進めていくように自然に指導していますが、この授業が国家間プロジェクトに位置付けられるとは、大変驚くと同時に、身の引き締まる思いです。

　さて本校は、9月26日に行われた小中学部の結団式以来、運動会に向けてダイナミックに動き始めました。今年の結団式では、中学部の応援団長、副団長、ダンス長、バナー長の4名が、1年生から9年生までの子どもたちに、運動会に向けた思いを語りかけ、紅白で円陣を組んで「絶対勝つぞ！」と気合を入れました。そして、学年を超えた縦割り活動で運動会を運営していかれるように、中学部では、生徒たちに企画書を書かせてリーダーシップの育成を行っていきます。練習が始まると、小学部では連帯感や協調性を身につけられるように、学年を超えて子どもたちをつなぐように支援していきます。また、日本的な協調性を学ぶことは、本校の附属幼稚園でも重視していることで、園児たちが「みんなと何かを創り上げる喜び」を就学前から学んでいることを、団体演技を通してお見せできると思います。

　子どもたちの心が揺れ動ぎ、毎年ドラマが生まれるのも運動会の醍醐味です。応援練習が思ったように進まない焦り、年齢の違いから理解しあえない壁、これらの葛藤を乗り越え、子どもたち自身が規律や協調性を身につけ、大きく成長する月、これがNACの10月です。

　エジプトで始まるEJEPは、毎年自然に巡ってくる運動会のような日本の学校行事の中に、大きな意味があることを教えてくれます。今月は子どもたちが疲れやすい月ではありますが、コミュニケーションをとりながら問題を解決していく所謂「人間力」を学ぶ月であることをご理解いただき、子どもたちの成長を見守っていただければと思います。

"Talent wins games, but teamwork and intelligence wins championships." 　　　　　　　　　Michael Jordan